

# 夏休み限定「子ども食堂」

大網白里 幅広い世代が交流

夏休みの児童生徒に食事を提供する「子ども食堂」が9日、大網白里市南横川の福祉施設「かきつばた」で開かれた。地域住民らが手伝いカレーなどを手作り。親子連れからお年寄りまで幅広い年代の市民が集まり交流を深めた。

かきつばたは要介護者が利用する小規模多機能型居宅介護事業所。「認知症カフェ」として施設を月に2回開放する取り組みの一環で、夏休みのこの時期に限り、高齢者だけでなく子どもまで客層を広げた。市内在住中学生以下は無料で食

べ放題、高校生以上も500円で楽しめる。市の「住民協働事業」に採択され、補助金も受けている。この日のメニューはカレーライスとコロッケ、ソーセージ、スイカ、プリン、ブドウなど。活動を支援する地元ロータリークラブや

周辺農家などが食材を提供し、ボランティアの主婦らが調理した。訪れたのは地域住民ら約50人。満腹になった後には切り絵や将棋を楽しむながら歓談した。

大越将司統括施設長は「地域の支援の輪が広がり、大人も子どもも楽しく過ご

せる場所が提供できた。また協力を募り、今後も冬休みなどに再度オープンできたら」と意気込んだ。次回の営業は23日午前11時～午後2時。予約不要。問い合わせは社会福祉法人翡翠会 ☎0475(72)9806へ。



夏休みの子ども食堂で食事を楽しむ親子＝9日、大網白里市